

NPO 法人アレルギー支援ネットワーク

<http://www.alle-net.com/>



◆ アレルギー支援ネットワーク 通信 ◆



NO. 27 2009. 3. 1

※等幅フォントでご覧いただくと最適に表示されます。

みなさん、こんにちは。少しずつ春を感じられるようになってきましたね。花粉症の方には辛い季節ですが、主治医の指導と色々なグッズを使って乗り切りましょう。

==== も く じ =====

1. 災害時の疑問 Q & A
2. 最新！アレルギー関連情報
3. 「ミニアレルギー大学」 小牧開催報告
4. 歯科治療材料アレルギーについてのアンケートご協力のお願い
5. 『一宮アレルギーっ子サークルくれよん』
6. イベント開催のお知らせ
  - 1) 第IV期アレルギー大学開講記念講演 & アレルギーっ子防災フェアの集い
7. メールマガジンについてのお問合せなど

=====

-----  
1. 災害時の疑問 Q & A  
-----

災害時の素朴な疑問に 湖西市災害ボランティア 前田 展雄さん にお答えいただきました。いざというときに迅速な対応ができるようにしたいですね。

今回の疑問

**Q**：災害時、現金を少ししか持ち出せなかった場合はどうすればよいでしょうか。保険証を持ち出せなかったら、医療機関を受診する際は自費になりますか？

**A**：現金が無いと自販機は困りますが、公衆電話は開放される可能性があります。（阪神・淡路大震災ではテレホンカードが有効でした）

顔なじみの店なら「ツケ」で、大きな店ではクレジットカードでもOKでしょう。

阪神・淡路大震災では、通帳、印鑑なしで、身元確認ができれば預金の引き出しが可能でした。念のため、口座をお持ちの金融機関で「非常時はどんな対応をして貰える？」と尋ねておくと安心ですね。

被災時にケガや病気の診療で、「保険証は・・・」と言われるでしょうが、保険証がなければ身元を示すもの（運転免許証など）で代用できるでしょう。非常時に設置される救護所や大病院（拠点病院）は、行政が関係しますので、10日前後の短期間ではありますが、無料になるでしょう。（災害救助法の適用された地域のみ）ですから、普段からサイドバックやハンドバックには、カード類や保険証、運転免許証、携帯電話・ラジオ、小型の懐中電灯（LEDタイプ）を入れて置くのが、有効な非常袋になります。寝るときも、近くにおいて置きましょう。

湖西市災害ボランティア 前田 展雄

次回の疑問は

**Q：何年以前の建物が危険？（法律が変わったのは何年？）**

です。お楽しみに☆

-----  
2. 最新！アレルギー関連情報  
-----

伊藤浩明（いとうこうめい）

あいち小児保健医療総合センター アレルギー科

## 第9回 食物アレルギー研究会 レポート

2月14日に、東京の慈恵会医科大学で「第9回食物アレルギー研究会」が開催されました。

この研究会は、故飯倉洋治先生が始められ、海老澤元宏先生（国立病院機構相模原病院臨床研究センターアレルギー性疾患研究部長）が引き継いで毎年行われています。医師をはじめとした医療関係者はもとより、病院や学校関係の栄養士、行政関係者、食品メーカーから患者家族まで、さまざまな立場の人が集まって食物アレルギーの診療、研究、社会的な対応の最前線を議論しています。

今回は、「2008年度の食物アレルギー対策の進歩」という企画が生まれ、食物アレルギーの診療や社会的対応の到達点が確認される会になりました。

病院における診療の進歩として、「食物アレルギーの診療の手引き」が改訂され、新たに「栄養指導の手引き」も発行されたことと、食物アレルギーの正確な診断に不可欠な「食物経口負荷試験」のガイドラインが今年4月に発刊される見込みであることが報告されました。

今年の社会的な進歩の話題は、何とんでも「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」が発刊され、「学校生活管理指導表」の運用が始まったことです。このガイドラインの画期的な点は、「全ての学校にアレルギー疾患で対応が必要な児童生徒は必ず存在する」という認識を明記して、それに対応する仕組みを全ての学校が作り上げることを求めていることです。その理念を実践するため

には、各地域の教育委員会と医師会の理解と協力が不可欠です。現場では、アレルギーの子どもを診療している主治医や学校医の先生と、学校側の校長先生をはじめ養護教諭、栄養教諭、担任の先生方の良好な協力関係が求められます。

このガイドラインの取り扱いを巡って、全国各地で様々な議論が沸き起こっています。すでに独自の先進的な取り組みを行っているところ、生活管理指導表の運用を開始したところ、来年度からの運用を目指して検討中のところ、まだ後ろ向きの議論に終始しているところなど、地域によって到達段階はさまざまです。文部科学省は、昨年11月頃に全国の教育委員会の代表を集めた講習会を行い、このガイドラインの実践を促したということです。愛知県でもそれを受けて、生活管理指導表の運用が開始され、教職員の研修会を開催する動きが急速に進んでいます。

学校生活管理指導表を提出する主な対象者は、正しく診断された食物アレルギーで給食対応が必要な方、微量の摂取でもアナフィラキシーをおこす危険のある方、中でもエピペンを処方されてその取り扱いについて学校との相談が必要な方です。食物とは無関係でもアナフィラキシーを起こす方、喘息やアトピー性皮膚炎・花粉症などが重症で、学校生活の中で特別な配慮が必要な方も該当します。来年度の進級や新入学に向けてこの指導表やそれに相当する文書を正式に学校に提出し、給食や行事における配慮や緊急時の対応などについて、十分に話し合う機会を作ってもらいましょう。場合によっては主治医や学校医の先生の助言もいただきましょう。お子さまのアレルギーについて、担任だけでなく、全ての先生方に知っていただくことも大切です。学校側はむしろ「個人情報保護」の建前から、一部の先生にしか情報を知らさない傾向があります。お子さまの安全確保のためには、積極的に「全ての先生に知らせて下さい」とお願いしましょう。

このガイドラインや学校生活管理指導表は、「日本学校保健会」のホームページで誰でも閲覧でき、ガイドラインの冊子も購入することができます。生活管理指導表は学校から渡されて提出するものですが、書式のコピーを持って行って「このような書類を提出する必要はありますか？」と尋ねてみるのも良いかもしれません。

ところで、このガイドラインには、学校の職員がアレルギーについて研修する機会を設けることの必要性も強調されています。アレルギー支援ネットワークからは、これまで3年間実施してきた「アレルギー大学」の実績について報告をしてきました。講座の規模や充実した内容について、全国の専門家の先生からも評価していただけたものと思います。来年度の企画もほぼ出来上がって、年々レベルアップした充実した講座を提供したいと、スタッフ一同努力しています。是非こちらの案内も覗いてみてください。

---

### 3. 「ミニアレルギー大学」 小牧開催報告

---

「ミニアレルギー大学 小牧」ご報告

昨年10月4日から11月30日まで、七回にわたり「ミニアレルギー大学小牧」(主催 アレルギーっ子のつどいクリスマスローズ・協力 NPO 法人アレルギー支援ネットワーク・後援 愛知県 愛知県教育委員会 小牧市 小牧市教育委員会 小牧市社会福祉協議会 中日新聞・会場 小牧市まなび創造館)を開催しました。

これは「アレルギー大学やアレルギーに関する講座を受講したいが、乳幼児がいる立場では小牧から名古屋は遠く、また託児がないと参加が難しい」との声を受け「ならば地元小牧でアレルギー大学の初級講座だけでも託児つきで受講できないだろうか?」と企画したものです。

当初、無謀かと思われた試みでしたが、平成二十年度モリコロ基金初期活動助成を受け、アレルギー支援ネットワークからの多大なるご協力をいただき無事に全講座を終了することができました。

助成金申請段階では、受講者は主にアレルギーっ子の保護者と想定していましたが、かねてから相談を重ねていた小牧市教育委員会にミニアレルギー大学の後援依頼をしたところ、市内の公立保育園・幼稚園・小学校・中学校・その他保健センターをはじめとする市の施設でチラシを配布していただけることになり、その結果、教育・給食関係者や保健センター職員、また保育園をはじめとする子育て分野に熱心に取り組まれている市議員の方にも受講いただきました。

講座初日には、地元選出県議員・市議員・市教育委員会次長にもご出席およびご挨拶いただき、市としてできるだけバックアップしたいとの発言もあり、これからの小牧のアレルギー対策に期待を抱きました。

受講者はスタッフを含め47名(のべ人数190名)、クリスマスローズ会員を中心としたアレルギーっ子保護者、栄養士、調理士、養護教諭、看護師、また地元大手スーパーの本部社員などさまざまな立場からのご参加をいただき、今後もアレルギーの知識をより多くの方に知っていただける橋渡し役にもなっていたらと期待しています。

各講座のアンケート結果は好評で、特に多かったご意見は

- ・今後もアレルギーについて学べる機会を開いてほしい
- ・行政との協働による活動の広がりを考えたい
- ・アレルギーっ子の保護者がなにをサポートしてほしいのかを知りたい
- ・給食をはじめとする園や学校での生活について相談できる窓口がほしい

というものでした。

また、今回のミニアレルギー大学で基本的な知識をしっかりと身につけられたことで、育児への不安が払しょくされ、診療に関する医師への質問や要望などが明確になったとのご意見もありました。

特に好評だったのが調理実習時のディスカッションで、自分の立場からではわからなかった実情やそれぞれの思いをお互いに知る機会になり、感極まって涙ぐむ参加者もいました。

立場は違えども、今後のアレルギーっ子を取り巻く環境がより暮らしやすいものになるようにと願う熱い思いを感じました。

小牧市はアレルギー対応に関しては、決して進んでいる自治体ではありません。しかし、今回のミニアレルギー大学開催を通じて「(アレルギーっ子の保護者以外にも)こんなにもたくさん理解してくれる人がいる」ということがわかりました。

ひとりひとりの力は小さいものですが、志を持ってできることから取り組んでいけばきっと変わることができるはず。ひとりでも多くの受講者にその思いを持ち続けていただけることを強く願っています。

---

#### 4. 歯科治療材料アレルギーについてのアンケートご協力をお願い

---

歯科治療では古くから金属アレルギーなどでは保険がきかない治療が続いています。

保険適用の願いは強い希望ですが、実際には私たちアレルギーを持つ患者の声が国などに届いている例は少なく、今回の私たちの取り組みで、患者・家族などの声をアンケートによってまとめ、届けたいと思います。

是非、皆様の積極的なご協力をいただけますようお願いいたします。

下記アドレスより、アンケートにお答えください。

⇒

---

#### 5. 『一宮アレルギーっ子サークルくれよん』

---

「一宮アレルギーっ子サークルくれよん」は、2008年7月から愛知県一宮保健所で活動を始めたばかりの新しいサークルです。

「くれよん」の由来は、色んな色（個性）が集まってステキな絵が描けるんだよ！アレルギーも個性なのだからみんなで乗り越えていこう。という思いが込められています。

発足のキッカケは「アレルギーっ子が安心して遊べる場が欲しいよね・・・」ということでした。子どもが友達と遊ぶ際に、食べこぼしや飛沫を心配するあまりに、集まりに参加していても楽しめなかった経験がある方は少なくないと思います。

ですので、月1回の例会中、お部屋の中では「水かアレルギー用ミルク（ニューMA-1 ミルフィー HP MA-mi エレメンタルフォーミュラなど）」のみ飲食の許可をしています。また、子どもの遊ぶおもちゃは「ゴム製品は避けて」持ってきてもらっています。

メンバーは主に0～6歳の子どもとその保護者です。  
小学生の保護者も参加しています。  
(症状は食物アレルギー・アトピー・喘息などです。)

スタッフはいないので、活動内容はみんなで決めていく「参加者がスタッフ」というスタンスです。(時々、先輩保護者の講演も企画しています)

また現在、保育園や学校給食のアレルギー対応に関する意見を集め、公共機関(給食センター・市の保育課・保健センターなど)への訪問を続けています。

市民団体として地域のみなさんに親しまれ、アレルギーの情報を発信していくサークルになれるように、アレルギー支援ネットワークのみなさんに助けられながら基盤作りをしている最中です。

悩み相談、情報交換、季節がよかったらお出かけ企画。  
みんなのやりたい事、こんなことあんなこと、ぜひ「くれよん」で実現させましょう♪

「一人で悩まない！」がモットー。  
興味がある方はぜひ参加してみてくださいね。  
活動内容などの問い合わせは・・・  
ichinomyakureyon@yahoo.co.jp  
にお気軽にメッセージください！

---

## 6. イベント開催のお知らせ

---

- 1) 第IV期アレルギー大学開講記念講演＆アレルギーっ子防災フェアの集い

---

## 7. メールマガジンについてのお問合せなど

---

★メールアドレスの変更や、このメールマガジンに関するお問合せは、asn-mailmagazin@alle-net.com（担当：園木）までお願いします。また、今後、アレルギー支援ネットワークのメールマガジンを希望されない方は、お手数ですが、件名に「配信停止希望」と書いてメールをお送りください。（メールマガジン配信準備の都合上、配信停止手続きと行き違いでお届けする場合がございますが、ご了承ください。）

★メルマガの転載について

無断転載・転送を禁じます。アレルギーの会などが活動で使用する場合は、事務局担当（園木）sonoki@alle-net.com までお尋ねください。なおメールマガジンのメールアドレスには、返信はできません。ご注意ください。

★会員のみなさまからのご要望、お便り、アレルギーについての疑問などお寄せください。

---

NPO 法人アレルギー支援ネットワーク

◇事務局◇ 444-0802 愛知県岡崎市美合町三ノ久保 13-3, 103

▽TEL/FAX : 0564-55-5702

▽E-mail : info@alle-net.com

☆◆-----◆☆